

活動テーマ

## 官学連携による共創拠点の形成

秩父郡横瀬町横瀬地区 立教大学

### 1 活動目的

横瀬町にある資源を学生の視点でコンテンツ化することで、横瀬町の掲げる理想像「日本一歩きたくなる町」の実現を目指す。

また、活動を通して関係人口の増加を目指し、最終的に定住人口の増加へつなげる。

### 2 活動地域の現状

人口約8000人、池袋駅から西武池袋線で約70分。

「日本一住みよい街、日本一誇れる町」を掲げ、最小経費で最大の効果を挙げて町民の幸福の最大化を図っている。

Well-Beingの推進や官民連携プラットフォームをつくりまちづくりなどをしたい団体や企業の公募を行い、横瀬町ならではの革新的な取り組みも行っている。

しかし近年人口の減少や高齢化が進行し、20年後には約3分の1になってしまう可能性がある。

### 3 活動内容

#### ①地域イベント企画

- 8月 ENgaWA 週末イベント「星空キャンプ inENgaWA」
- 11月 里山まるマルシェ
- 11月 ENgaWA 週末イベント「心も体もおいもでホッと♡秋の味覚食堂 inENgaWA」
- 2月 氷柱立教企画「君の♡(心)もライトアップ Icicle festival」
- 2月 ENgaWA 週末イベント「冬にほっこり♪スノーホワイト焚火カフェ」

#### ②地域イベントの補助

- 7月 ホテルかがり火まつり
- 7月 夏の体験学習  
・西善寺ライトアップ
- 11月 里山まるマルシェ

### 4 成果

#### ①地域イベント企画

昨年度に引き続き、より充実したコンテンツの作成に力を入れた。ENgaWA イベントや秋マルシェなどの立教企画では地域の食材を利用した二次製品の販売を行った。ジビエ精肉加工工場がオープンしたのをきっかけに、ENgaWA でジビエをメインにした。ジビエ提供等を通して、地域外に魅力を発信するだけでなく、地域の人にも新たな魅力に気づいてもらう機会を創出できた。そのことにより、幅広い層の関係人口の増加や地域の魅力向上につなげることができ、学生自身も地産地消の取り組みに関して新たな発見や課題を見つけることができた。

11月に行なわれた里山まるマルシェでは、去年の反省点を踏まえて、今年は幅広い年齢層に向けたブースを用意した。あたたかい飲み物の販売やしおりづくりを行った。しかし例年の課題である当日の気温や状況によって需要が大きく変化することの対応は改善の余地がまだあるのではないかと考えている。

## ②地域イベントの補助

7月に行われたかがり火まつりではテントの設営補助やかがり火の点灯補助を行った。アンケート調査を能動的に行い、より多くの回答を得ることができた。



11月に行われた里山まるマルシェでは、ほとんどの札所に立教生が常駐し、スタッフとして運営を支えた。今後もゲストとのコミュニケーションを積極的に測ったり、私たちもゲストとして参加することで、今後のイベントの改善や新たな企画の提案を努めていきたい。



## 5 課題

### ①情報周知と誘客

イベント開催時の横瀬町以外、特に若者の来場者獲得と、イベント自体のクオリティ強化を図る。

### ②課題共有

アンケート調査における回収方法、内容、データ化が統一されておらず課題発見に繋がりがづらい現状があるため、町と共有し改善する。

担当メンバーだけでなく下の学年にも課題を細かく共有し、今後のイベントの質を向上させる。

### ③「歩きたくなる町」の浸透

他のウォーキングイベントとの差別化や SNS を通じた発信強化を行い、「歩きたくなる町」の浸透を目指す。

## 6 次年度以降の計画

### ①花咲山でのランタンイベント

氷柱立教企画でも使用した LED ランタンを用いて花咲山でランタンイベントを行う。

### ②ENgaWA 食堂でのイベント開催

来年も引き続き ENgaWA 食堂での定期的なイベント開催を行っていく。来訪者数を増やすことを目標に、広報に力を入れ、他にも、訪れたいようなメニューの考案などにも取り組んでいく。